※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | １１０ |
|---|---|

# 令和８年度　芸能文化科

| 教科 | 芸能文化 | 科目 | 創作実習（鼓） | 単位数 | ３単位 | 年次 | ３年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | なし | | | | | | |
| 副教材等 | 自主教材プリント等、各曲の手付（楽譜） | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

鼓の授業をプロの演奏者から正式に受けることができるのは全国的に見ても非常に稀な貴重な機会である。長い歴史をもつ伝統的な楽器であるので、その演奏方法を習得するとともに、能を中心とする日本の伝統文化の意義や役割を肌で感じて、知識や理解を深めてほしい。卒業発表会、ヤング能での発表、選択発表会と、舞台で演奏する機会を得ることができるのも非常に貴重な経験となるはずである。

2　学習の到達目標

（１）講師の指導のもと、邦楽楽器の演奏に必要な身体の使い方など基礎的な技能を身につけることをめざす。
（２）４つの音の組み合わせでの演奏だが、掛け声も会いまった豊かな表現力を必要とする小鼓の演奏を通じて、様々な判断力を身につけることをめざす。
（３）４つの音という単純な楽器だからこその主体的な学びの重要性が際立つことを理解し、稽古を積むことの重要性を身につけることをめざす。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 鼓の各部分の名称を理解する。鼓の持ち方、構え方、姿勢を理解する。四つの音の名称と打ち方をし、実践する。四つの音の表記方法と手付（楽譜）の見方を理解する。掛け声の表記方法とかけ方を理解し実践する。 | 謡に合わせて、鼓を打ち、掛け声をかけ、演奏を行えるようになる。他のメンバーと呼吸を合わせて、スムーズな演奏を行えるようになる。能の演目全体でどのような場面の曲で、どのような表現がふさわしいか工夫する。七月の卒業発表会、１月の選択発表会に向けて、演奏の完成度を高める。 | 鼓をもつ構え、姿勢に気をつけて、よりよい音が出るように、自分なりに調整する。打ち方や演奏の方法を理解した後は自主的に練習を行い、手付を見ず演奏できるようにする。七月の卒業発表会、１月の選択発表会に向けて、他のメンバーと協力して本番の発表に取り組む。 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 前期 | 基本1 | 「竹生島」 | a:鼓の各部分の名称、４つの音の名称、それに伴う掛け声を理解し、実践できる。<br>b:「竹生島」において基本的な手付（三地、カン三地、つづけ）を中心に打てるようになる。<br>c:鼓をもつ構え、姿勢に気をつけて、よりよい音が出るように、自分なりに調整する。 | 実技<br>小テスト | 実技<br>小テスト | レポート<br>授業態度 |
| | 基本2 | 「小袖曽我」 | a:「小袖曽我」の全体のあらすじと場面の設定を理解し、「ノル地、打放」などの手付が実践できる。<br>b:「小袖曽我」を謡に合わせながら打ち、卒業発表会の発表にむけて準備する。<br>c:自分だけの調子ではなく、謡メンバーと鼓メンバーの連携を図りながら、連調としての演奏を完成させる。 | 実技<br>小テスト | 実技<br>小テスト | レポート<br>授業態度 |
| 後期 | 実践1 | 「高砂」四海波、待謡 | a:もう一度基本に立ち返り、打ち方を確認し、新しい手付を理解し実践する。<br>b:「高砂」全体の内容と、現代で演奏させる意義を理解し、それにふさわしい表現を実践する。<br>c:他のメンバーと一緒ではは く、一人の演奏（一調）であっても演奏できるように努力する。 | 実技<br>小テスト | 実技<br>小テスト | レポート<br>授業態度 |
| | 実践2 | 「八島」 | a:　選択発表会にむけて、舞台への出はけもふくめて理解し実践する。<br>b:能の演目における平家物語の意義と勝ち修羅の意味を理解し、演奏できるようになる。<br>c:他のメンバーと協力し、発表にむけて主体的に練習、努力する。 | 実技<br>小テスト | 実技<br>小テスト | レポート<br>授業態度 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度